

中京大学広報 203号

真剣味

2023 Dec.
Chukyo University
Public Relations Magazine



CHUKYO UNIVERSITY

2024年4月、中京大学大学院に
人文社会科学研究科誕生！

100th
UMEMURA
ベストMAX

※掲載した内容は、取材当時のものです

2024年 4月 中京大学大学院
人文社会科学研究科

始動。

CHUKYO UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL

梅村学園創立100周年 中京大学開学70周年 記念式典開催

2023.5.20
日本ガイシホール

第1部

第1章

中京大学卒業生でCBCアナウンサーの加藤愛さんによる司会で式典が始まりました。学校法人梅村学園を代表して梅村清英総長・理事長、学長より梅村学園100周年にあたり、皆様への感謝の気持ちを述べるとともに、学園の歴史を振り返りました。続いて来賓の祝辞と「梅村学園 学園歌・中京大学附属中京高等学校校歌」斉唱があり、現役の高校生・大学生のみならず、卒業生も懐かしみながら歌う光景がみられました。

第2章

第2章の始まりは、中京大学演劇部・劇団いかづちの皆さん。約20分の迫真のセリフで梅村学園の歴史を語りました。続いて「UMEMURA VISION 2033」発表へ。「挑戦と調和」という言葉を掲げ、「社会になくってはならない人材」を輩出することを高らかに宣言しました。

第2部

第2部オープニングを飾ったのは中京大学卒業生の室伏広治スポーツ庁長官です。学生たちの大歓声に迎えられ、学生当時の思い出を語るとともに、ハンマー投げのポーズで会場を沸かせました。

その後は、中京大学・中京大学附属中京高等学校合同吹奏楽団、中京大学附属中京高等学校チアリーディング部や、中京大学文化会晴地舞による演舞が会場を盛り上げます。中京大学卒業生も所属するバンド、緑黄色社会の「Mela!」に合わせた中京大学附属中京高等学校の生徒たちによるダンス映像によって最高潮の雰囲気なか記念式典はフィナーレを迎えました。

そして、次の100年へ。

梅村学園創立100周年・中京大学開学70周年の記念式典は、多くの生徒・学生たちの協力がありました。舞台から会場を盛り上げた方々、映像出演というカタチで記念式典を彩った方々、そして会場運営も多くの学生ボランティアによって支えられました。

梅村学園が創立100周年を迎えることができたのは、皆さまの温かいご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

梅村学園創立
100周年記念
式典記事



梅村学園創立
100周年記念
式典サイト



技術開発

工学部 瀧剛志教授

人の行動認識のための



“人がどう動くか”を調べ尽くし、
産業発展のカギを見つける。

映像処理や可視化技術を応用してスポーツ選手の動きやチームプレイを分析する技術の研究開発を進めています。近年のスポーツにおいて、位置情報や映像データを活用する情報工学のニーズは大きく、プロのチームでも戦略の策定や練習の効率化のためにデータの収集・分析を行っています。そこで私たちは、さまざまな種類のカメラや位置センサを用いて広範囲にわたって選手の行動を撮影・記録するシステムや、動的な位置関係から試合展開の優劣を推定するシステムの研究に取り組んでいます。

現在、特に注目しているのが360度カメラです。選手に360度カメラを装着してもらうことで、その選手の視点や動き方、対戦相手に対する反応などをチェックできます。実際に本学のアメリカンフットボール部でも活用しており、司令塔を務めるクォーターバックの選手のヘルメットに360度カメラを装着し、選手視点から練習風景を

撮影しました。この動画の一番のメリットは、他の選手が同じ場面を擬似的に追体験できることです。アメフトは大学生になってから始める人の多いスポーツですが、プレイヤー視点の動画を活用することで、初心者でも試合時の動きや反応を学ぶことができます。普段の練習効果を高めることができますでしょう。

撮影技術や位置情報システムの発展により、データ収集はそれほど難しくありません。本当に重要なのはデータの活用法です。たとえば個人の走り方の特徴を分析することでその人に合った競技を調べたり、スーパーマーケットなどで人の流れを分析することで、商品の陳列を見直したりなどです。データはスポーツに限らず幅広い分野で応用できます。

このように人の動きを分析する研究は、アイデア次第で産業の発展につながり、SDGsの目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」の達成にも貢献できる重要な分野だと考えています。

持続可能な社会の実現に向かって

中京大学教員の研究レポート >

中京大学には人文系から工学系
未来を変えるかもしれない、

まで多岐にわたって、多彩な研究者たちがそろっています。
そんな希望を情熱に変えて教員が挑んでいる、研究の最前線をご紹介します。

安全安心な交通社会を実現するため、 自動運転に関する法整備に挑む。

近年、渋滞の抑制や安全性の向上を実現する運転支援車および自動運転車の普及が期待されています。しかし、自動運転を導入するにあたって、大きな課題の一つとなっているのが法律です。もし自動運転技術を搭載した自動車が事故を起こしてしまったとき、その責任はドライバーにあるのか、自動車メーカーにあるのか、システム開発者にあるのか……。本格的に自動運転を社会実装するためには、法整備がまだまだ不十分だといえます。そこで、先進技術が安全に導入される社会をめざして、事故事例の分析や道路交通法の

見直しといった自動運転技術に関する法研究を行っています。

法整備を進めて自動運転技術が普及することは、SDGsにも深く関わっています。運転支援や自動運転によって交通事故率が低下することは、目標3「すべての人に健康と福祉を」や目標11「住み続けられるまちづくりを」に、先進技術の革新は目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」の達成に貢献しています。自動運転はまさに人々の安全や暮らしやすさに直結する技術だといえるでしょう。また目標13「気候変動に具体的な対策を」にも関連しています。自動運転技術によって自動車がスムーズに走るようになれば、排気ガスや燃料使用を抑制し環境負荷の低減につながるはずです。

自動運転に関する法制度を考えるにあたり、法律家、自動車工学の研究者や自動車メーカーをはじめとした企業の方々など、さまざまな方の意見が必要になります。さらに自動車は国際的な条約や協定にも関わるため、海外の情報収集も欠かせません。自動運転にまつわる法整備は一筋縄ではいきませんが、安全性と利便性を両立した交通社会を実現するため、法律家の立場から最善案を考えていきます。

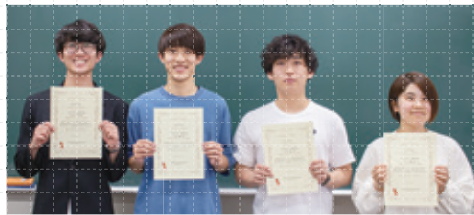
法律研究

法学部 中川由賀教授

自動運転の新技术に関する



国際学部学生4人が Mie-英語授業PR大使に選ばれる



▲ 互理陽一ゼミ（左から）城宗一郎さん、大前晴日さん、石黒順大さん、山口真緒さん

「Mie-英語授業PR大使」は、英語教育を学んでいる大学生が、三重県内の高校の英語授業を参観し、授業改善に励む先生や学校の取り組みを、学生の立場から県内外に発信することを目的としています。今年は国際学部言語文化学科の4人の学生が任命されました。Mie-英語授業PR大使が中京大学から任命されるのは、昨年に引き続き2度目です。

名古屋六大学が連携協定を締結 北陸で合同説明会を開催



中京大学、名古屋大学、名古屋工業大学、名古屋市立大学、南山大学、名城大学の名古屋六大学は5月28日、国公立の枠を超え、教育・研究・学生交流の分野で連携・協力するための協定を締結しました。協定締結式は、中部圏の大学における学生募集の重要な地域である北陸地方の石川県金沢市で行われました。

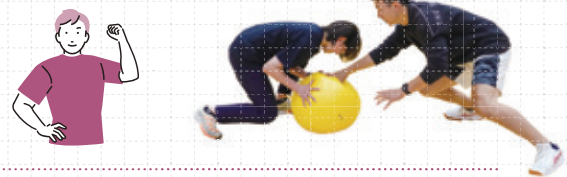


MONTHLY NEWS

スポーツ科学部×JADA スポーツの価値を体感する「NewMO!」を体験



スポーツ科学部の授業において、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（以下、JADA）と共に「NewMO!」というアクティビティを実施しました。当時JADAアスリート委員であった本学卒業生の室伏広治さんが発案した、新しいスポーツです。相撲のルールを基本とし、参加者に合わせてバランスの取れるルールを追加できることが特徴です。



2023年度教育奨励賞の表彰式が 名古屋・豊田キャンパスで実施



2023年度教育奨励賞の表彰式が6月22日、名古屋・豊田の両キャンパスで行われました。中京大学教育後援会は、学生の修学意欲の高揚を図ることを目的に、教育奨励賞として毎年各学部・学科の成績優秀者を表彰しています。今年度は名古屋キャンパス141人、豊田キャンパス77人の計218人が受賞しました。梅村清英学長は「この受賞をきっかけに、学生生活がより充実したものになることを願います」と受賞者をたたえました。

交換留学生が中京大学附属中京高等学校で 生徒たちと交流、教員に質問も



本学交換留学生のソシボン・ジョーイさん（カリフォルニア州立大学サンマルコス校 アメリカ）が6月9日、附属高校を訪問し、生徒と交流しました。「教員になりたい」というジョーイさんは、附属高校の教職員に対して、日本の学校教育や授業に関する質問を行い、日本の教育環境についても理解を深めていました。

豊田市と連携し、世界水泳カナダ代表と 地元小学生の交流イベントを開催



世界水泳選手権に出場する競泳カナダ代表選手団が7月14日、豊田市立伊保小学校の児童と交流しました。この交流は、中京大学が豊田市と連携して実施した地域貢献活動の一環で、中京大学豊田キャンパスの50m屋外温水プールで行われました。児童たちはカナダ代表コーチに習い、選手が息継ぎをするタイミングに合わせて掛け声を上げ、選手らを応援しました。

スポーツ科学部草薙健太ゼミ アウトドア×防災訓練イベントを開催



豊田市駅東口まちなか広場で「スポキャンbar with 防災訓練」を7月15日、開催しました。日本スポーツ産業学会が実施しているアイデアコンペに、草薙ゼミの3年生が提案して実現しました。自衛隊による防災知識学習などに学生がサポーターとして参加し、子どもたちだけでなく、学生たちも楽しみながら学んでいる様子が見られました。

海外協定校からの交換留学生が本学学生と セントレアで日本の伝統文化を体験



本学の海外協定校からの交換留学生13人と本学の学生19人が7月16日、中部国際空港セントレアでの盆踊りイベントに参加しました。学生ボランティア団体「VOICE」は、バスツアーやミッションゲームを企画しました。スカイデッキでの盆踊りでは、日本文化への理解を深めた様子でした。

中京大学オープンキャンパス 名古屋・豊田合わせて8,600人以上の参加者で賑わう



中京大学オープンキャンパスが名古屋・豊田の両キャンパスで行われました。学生による研究発表や学生生活のプレゼンテーションなどのほか、入試や留学などについて相談できるブースでは、積極的に質問する高校生の姿が。保護者ガイダンスの会場では本学のサポート体制や奨学金制度などへの関心の高さがうかがえました。

経営学部中村雅章ゼミ 八事山興正寺と企画した夏祭りを開催



学生たちは今年初めて主催側として企画から夏祭りに携わりました。当日は学生による司会進行、会場運営に加え、盆踊りステージ、クイズ大会、屋台の運営などを行い、盛り上げました。学生屋台ではヨーヨー釣りのほか、地元のフレンチ料理店とコラボレーションしたドーナツを販売しました。

よさこいチーム晴地舞 「第25回にっぽんど真ん中祭り」健闘賞を受賞



よさこいチーム晴地舞は、8月25～27日に開催された「第25回にっぽんど真ん中祭り」に参加し、健闘賞を受賞しました。

学生のコメント

自分たちの演舞で何かを頑張る人の励みになりたい、という思いを込めて、晴地舞全員一丸となり演舞することができました。

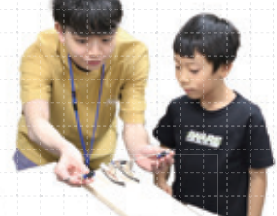
2024年中京大学開学70周年 ロゴマークが決定



中京大学は2024年に開学70周年を迎えます。記念すべき年を迎えるにあたり、ロゴマークの制作を進め、数多くの中から右のマークに決定しました。70周年と本学のスクールカラーを掛け合わせ、未来へ向けて歩み続ける様子を表現しています。これからも学生主役をモットーに、社会に貢献できる人材の育成に力を注いでまいります。



夏休みの恒例行事、小学生向け 名古屋市科学館との連携講座を開催



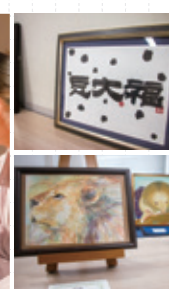
中京大学人工知能高等研究所と名古屋市科学館による連携講座「電気いらずのトコトロボットを作ろう!」が8月26日、名古屋市科学館で開催されました。11回目の開催となる今回の連携講座。サポートにあたった学生は「子どもたちの自由な発想や何事にも楽しんで取り組む姿勢に、私たちのほうが勉強になりました」と振り返りました。

北村涼乃選手(経営学部4年) 初出場の世界大会で準優勝

2023年IBTF世界バトントワリング選手権大会が、8月9日から13日にかけて英国で開催されました。バトントワリングとは、バトンの操作と身体の動きを音楽に合わせて組み合わせる、とても芸術性の高い華麗なスポーツです。日本代表として出場した北村涼乃選手(経営学部4年)が、スリーバトン女子アダルト部門で準優勝しました。



第6回文化会発表会が4年ぶりに対面開催



中京大学文化会は9月2日、第6回文化会発表会を開催しました。文化会所属団体が、日頃の成果をステージ上で披露したり、教室内に作品を展示したりするなどしました。2019年度以来4年ぶりに対面開催となった2023年。学生たちは生き生きとした表情で、ステージ発表や展示作品の解説をしていました。

Unity主催「UAA Game Jam2023」が 豊田キャンパスで開催



ユニティ・テクノロジーズ・ジャパン株式会社によるゲームジャム(短期間でゲームを制作するイベント)プログラム「UAA Game Jam2023」が9月19日・20日、豊田キャンパスで開催されました。14人の学生が参加し、3グループに分かれてオリジナルゲームを制作し、音声認識を用いたRPGが優秀作品に選ばれました。

2023年度9月卒業式 66人が巣立つ



2023年度春学期卒業生の卒業式が9月20日、名古屋キャンパスで行われ、大学院生1人、学部生65人が門出を迎えました。梅村学長は、「人生はどこまでも学びの連続です。たとえ苦難の時はあるとも、必ずや、皆さんの前には道が拓ける日が訪れます」と式辞を述べました。

第39回ファジィ システム シンポジウム(FSS2023)で 岩川壺さん(工学研究科)が優秀発表賞を受賞



工学研究科の岩川壺さん(修士課程2年・加納政芳研究室)は「運転を振り返る際に、ロボットが異なる発話速度で会話したときに、ロボットからのアドバイスを受け入れる度合いにどのような影響を及ぼすか」について発表し、FSS優秀発表賞を受賞、指導教員の加納政芳教授には、貢献賞が贈られました。

板倉奈々葉さん(国際学部4年) 外務省主催プログラムでメキシコへ留学



板倉さんコメント

メキシコで約1年にわたって学びとコミュニケーションを深め、日本に帰国する際には、自分に自信を持てるようになりたいです。



国際学部4年の板倉奈々葉さんが、外務省主催「日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画」に選ばれ、10月中旬から約1年間、メキシコでの留学生活を送ります。同計画は両国間の相互理解と友好親善を目的に1971年より実施されています。

アメリカンフットボール部応援イベント 中京大学は28-10で名古屋大学に勝利



大学スポーツをもっと身近に感じてもらうために、スポーツ振興部がアメリカンフットボール部秋季リーグ戦を本学に誘致したことで実現しました。観客にはスティックパルーンやアメフトのルールを解説したチラシが配布されました。放送クラブTMPによる試合の実況・解説や、チアリーディング部によるハーフタイムショーが行われるなど、活気あふれるイベントとなりました。

油口琢磨さん(法学部3年)がNewsPicksの学生アンバサダーに就任



『NewsPicks』は、経済ニュースに各界の有識者や専門家などのコメント・解説を加えて発信するニュースサイトです。NewsPicksの学生アンバサダーは、NewsPicksで若い世代同士の「学び合い」と「新たな視点の発信」を担います。油口さんは、これまで若者の政治参加を促す活動を行ってきました。今後の活躍にご期待ください。



NewsPicks
学生アンバサダー
について
詳しくはコチラ



総合政策学部今井良幸ゼミ 子ども向けイベントに出展



今井ゼミは10月7日、プライムツリー赤池の子ども向けイベント「ASOB! TREE」で「米かるた」大会を実施しました。米かるたは、地域政策や地域活性化の研究を行っている学生たちが、日進市の地域活性化プログラムに参加するために企画・作成したものです。遊びながら日進市の米作りを学ぶことができます。

教員を目指す中京大生が 愛知総合工科高等学校で「闇バイト加担防止授業」を実施



中京大学の教員を目指す学生たちが、愛知総合工科高等学校で「闇バイト加担防止授業(特殊詐欺加担防止授業)」を実施しました。学生は事前に千種警察署の警察官から闇バイトの実態について学び、授業の準備を進めてきました。「条件が良すぎるものや、個人情報についての同意書がないアルバイトは疑うようにしてください」と注意を促しました。

学生広報スタッフ「ライト」発足



学生広報スタッフ「ライト」が発足しました。学内で公募を行い、選考を突破した学生16人が所属しています。大学広報に求められている使命を共有し、学生目線で情報を発信するために活動しています。さらに多数の研修を受け、取材や撮影のノウハウを学び、学生自身がスキルを向上させながら日々取り組んでいます。

メンバーの活躍にご期待ください!

「ライト」に込めた思い...

大学の取組み、
学生の活躍を
「照らす」

自ら取材し
記事を
「書く」

活動は
フットワーク
「軽く」

下記イベントでもライトメンバーが取材&撮影、原稿作成を行っています!

2023年度中京大学祭 両キャンパスで開催 9,000人を超える来場者で賑わう



名古屋キャンパスで11月3日～5日、豊田キャンパスで11月4日～5日に中京大学祭が開催されました。合計9,000人以上が来場し、在学生はもちろん、卒業生・地域の方々が賑わいました。ステージでは演奏やパフォーマンスが披露され、食べ物やゲームなどさまざまな特色あるブースが出展し、中京大学らしいエネルギーあふれる大学祭となりました。

豊田キャンパスで 子どもスポーツフェスタ2023を開催



家族でさまざまなスポーツが楽しめる「中京大学 子どもスポーツフェスタ」が11月12日に開催されました。中京大学の現役学生選手や、オリンピックの競技指導者たちから、各種スポーツの上達のコツなどを直接教えてもらえるということで、今年度は1,500組約5,000人が参加しました。

なお、当日の様子は本学Instagramの他、学生広報スタッフによるハイレイト動画(近日公開)でご覧いただけます。@chukyo_university

ハイレイト
動画
COMING SOON!



撮影・学生広報スタッフ

山内 湊太
(スポーツ科学研究科修士2年)
樋口 生海(経営学部3年)
山本 梨奈(工学部2年)

動画制作・学生広報スタッフ

足立 結香(総合政策学部3年)
市村 悠羽(文学部3年)
久保 美優(文学部3年)
熊谷 有紗(スポーツ科学部3年)
小山 昌哉(法学部2年)
近藤 里帆(現代社会学部1年)
鈴木 沙耶香(現代社会学部1年)
園田 真那斗(現代社会学部2年)
中神 貴絵(総合政策学部3年)
樋口 生海(経営学部3年)
松下 萌(現代社会学部3年)
谷高 彩音(文学部3年)
山本 梨奈(工学部2年)

永遠の挑戦者たち

ダイジェスト版

中京大学にいるたくさんの研究者たち。

決して簡単に解決できない課題に、

なぜ、挑み続けられるのか。

中京大学公式ホームページ特設サイト「永遠の挑戦者たち」では、

研究者が挑戦する姿をお届けしています。

Challenger 1 世界中「実現不可能」と言われても

神奈川県横浜市・山下公園ふ頭の「GUNDAM FACTORY YOKOHAMA」では、実物大の"動くガンダム"が公開されています。実物大のガンダムを自立させて歩かせる、という企画は、世界中の多くの専門家から「無理だ」と言われました。ロボット工学の常識で考えると、当然そうなると思います。私自身としては、「すごく難しいけどできる」と思っていました。なぜなら、18mを超える動くものはいくつもあるからです。例えば観覧車やロケット、デパートやホテルの屋上にあった回転レストランだってそうです。難しいとは思いましたが、あのガンダムを作るんだという喜びの方が勝りましたね。僕は日本のロボットアニメが大好きで、本当に子どもの頃から憧れていましたから。



工学部 ハルトノ・ピトヨ教授の挑戦



Challenger 3 応援と尊重が少子化対策のカギ

私の研究テーマは、『我が国の少子化の進行および背景の全体像を捉え、具体的な少子化対策を提言する』ことです。政府や自治体から依頼を受け、少子化問題、子育て支援、地方創生などの会議に委員として参加し、さまざまな提言を行ってきました。私が提言する少子化対策は、個人や家庭の選択の自由を尊重することがベースにあります。①結婚を希望する人を応援する、②幅広い家庭が、希望する子ども数を持てるように応援する、③子どもを育てている人(家庭)を応援する、④結婚や子どもを持つ意思がない人の選択を尊重する。それぞれが希望していることを応援するとともに、阻害要因を取り除くことで、出生率の回復を目指しています。



現代社会学部 松田 茂樹教授の挑戦



Challenger 2 運動で仕事や勉強がはかどる?

これまでの研究で、運動により脳が活性化することは、ほぼ間違いないことが客観的データで示されています。だまされたと思って、ぜひ試してください。とはいえ、運動不足解消へのハードルは、なかなか高いものですよ。いきなりハードな運動をする必要はありません。まずは『心地よいと感じる程度』をおすすめします。数十分程度のジョギング、自転車による通勤、エレベータを使わず階段で上るでも良いのです。手軽にできる程度から始めましょう。慣れてきたら、徐々に強度を高めてみてください。次第に、運動後には頭が冴えていることを実感できるのではないかと思います。仕事力や学力への効果が感じられれば、継続する意欲も高まるはずですよ！



教養教育研究院 紙上 敬太准教授の挑戦



Challenger 4 サブスクとどう付き合う?

サブスク(サブスクリプション:商品・サービスの利用に対しての定額料金制)は、すっかり私たちの生活に不可欠になった、といっても過言ではありません。消費者の購買行動が、若者を中心に所有から利用へとシフトしてきたことを背景に、手軽に、安く、試すことができるサブスク市場は、急速に拡大しています。一方で飲食や自動車などは、割引やローンとの差別化に苦戦し、撤退する企業もみられます。サブスク市場が急速に拡大してきたことで、利用者の期待値も上がっていますが、あれこれと手を出してしまい、本来の利用目的や利用価値を見失う懸念もあります。利用者、企業それぞれにとってサブスクの理想の着地点を考えてみましょう。



経営学部 中村 雅章教授の挑戦



中京大学誌面講座 vol.3

暮らしに役立つワンポイントアドバイス

法律上は

18歳はもう大人。「自分は大丈夫」は本当? 身近に潜む契約トラブルから身を守ろう



今回、講師を務めるのは…

法学部
杉島 由美子教授

研究分野 民法、消費者法

民法が改正され、2022年4月1日から、成年年齢が20歳から18歳に変わりました。大学生は既に成人となったわけです。自分の意思が尊重されるというメリットはありつつも、自分が消費者として契約するときにはちょっと注意が必要です。今回は、民法・消費者法の視点からお話します。

健康への影響などを考慮し、
飲酒や喫煙などの
年齢制限は20歳のままです！



! 若者の契約トラブル、増加中!

10代、20代によくあるトラブル



インフルエンサーがおすすめしていたシャンプーを買ったら、勝手に(実は勝手に、ではないのですが)最低半年間は解約できない定期購入になっていた！



脱毛エステが無料だと聞いてお店に行ったら、10万円もするコースの契約をしてしまった。しかも、解約したいけど電話がつながらない……。



SNSで知り合って、信頼できると感じた人に、コンサートのチケットを譲ってもらった約束をした。先にお金を振り込んだらブロックされて音信不通に。*



就職セミナーだと思って参加したら、高額なサポート講座の契約を迫られた。「自分で決めよう」「親に相談するとダメって言われるよ」などと言われて契約してしまった。どうしたらいいかわからない。

* チケットの不正転売は、法律で禁止されています。

1 「学生だから」は通じない!

未成年者が親の同意を得ずに契約した場合には、民法で定められた「未成年者取消権」によって、その契約を取り消すことができます。しかし、18歳からは成年となるため、未成年者取消権は使えません。たとえ大学生でも「学生だから」は通じないのです。

2 クーリング・オフは万能?

このご時世、買い物するときオンラインショッピングを使う人は多いのではないのでしょうか。実はオンラインショッピングにはクーリング・オフは制度はありません。安易に注文せず、必ずそのショップの返品特約を確認してから注文(契約)しましょう。

3 「自分だけは大丈夫」はキケン。

「自分は大丈夫」と思っていませんか。情報弱者と言われる高齢者だけではなく、残念ながら10代を含めたすべての世代が悪質な契約のターゲットにされています。契約トラブルを自分ごととしてとらえる意識と、巧妙化する契約トラブルの情報に関心を持つことが大事です。

親としてできること 日頃からコミュニケーションをとりましょう

大学生になると、お子様の行動、交友関係は広がります。実家暮らし・一人暮らしにかかわらず、お子様とは積極的なコミュニケーションを心掛けてください。「こういうトラブルがあるらしいよ、怖いよね～」など何気ない会話が、情報交換となり、万が一のときにトラブルからお子様を守ることにつながるはずです。





チャレンジ奨励金

中京大学
チャレンジ奨励金
とは？

大学の主役である学生が、さまざまなことに積極的に取り組む姿勢をサポートする奨励金制度です。
今年度採択されたプロジェクトから、2チームをクローズアップして進行状況をレポートします！

日間賀島チャレンジプロジェクト

学生だからこそできる離島への貢献

急激に進む人手不足や少子高齢化など、さまざまな課題を抱えている日間賀島。その課題解決と、何よりまずは島の魅力を知ってもらうため、地域創生に興味がある人や、主体的に挑戦できる力を身につけたい中京大生を募り、たくさんの仲間と共に、島の持続可能な発展に貢献できる人材となれるよう活動しています。



8月はほぼ日間賀島で過ごしたメンバーも



奨励金に採択されたことで、たくさんの学生の募集に成功。また「大学が認めた活動」という対外的な信頼感が増し、活動が勢いづきました。

プロジェクト代表者

鹿島 心真さん
(国際学部 3年)



主に若い世代へのPRのため、実際に島に行ってみて見た魅力をInstagramのリール動画で発信しました。

プロジェクトの今後

2024年1月にあるSDGsリレーションポジウムへの参加や、次年度の活動に向けた人材育成にも力を入れていきます。

ボードゲームで電気の魅力を広める！

電気の魅力を、次世代を担う子どもたちへ

電気分野の知識はテレビ、スマートフォン、車などさまざまな製品に使われています。日々、電気を研究している私たちが、電気分野の入口である電気回路について、小学生が楽しく学べるきっかけとなるよう、知育系ボードゲームの開発に取り組んでいます。



プロジェクトの今後

ボードゲーム完成後は、大学のある名古屋市昭和区の学童クラブに寄付する予定です。いつかこのゲームで遊んだ子どもたちが、電気電子工学科に入ってくれたらいいなと思っています。

プロジェクト代表者

仁賀 康太さん
(工学部 4年)



電気なのに、なぜアナログなボードゲーム？

オンライン化が進み、直接会わなくても物事が成り立つ時代。そこにあえてボードゲームを選んだのは、やはり対面ならではのコミュニケーションのおもしろさ、魅力があるからです。



レッツゴーブンカ 其の壱



『レッツゴーブンカ』とは？

スポーツのイメージが強い中京大学ですが、実は文化会部活動の活躍もアツい！というわけで、

今回の号から登場した新企画です。中京大学文化会から、日本や世界の文化を再発信していく連載企画です。



第1回

中京大学文化会 フィルハーモニー交響楽団

岡田 裕紀さん(団長・経営学部 2年)



年末によく耳にする曲といえば、ベートーヴェン作曲交響曲第9番、通称「第九」ですね。「第九」は、ベートーヴェンの晩年の作品です。曲の構想力、旋律の美しさ、アイディアの新しさ、オーケストラの響きなど、どれをとっても音楽史上の最高傑作といわれているほどです。実は、作曲していた晩年、ベートーヴェンの聴力は、ほとんどなかったそうです。ピアノに木の棒を取りつけ、それを歯で噛み締め、今でいう骨伝導で音を聞き作曲していたといわれています。

「第九」の中でも一番有名な第4楽章は、オーケストラだけでなく声楽も加わり「歓喜の歌」として親しまれています。交響曲に声楽が加わることは、交響曲の歴史においてベートーヴェンが初めて試みたとされています。「歓喜の歌」といえば、皆さんがご存じのメロディーを思い浮かべるのではないのでしょうか。しかし、冒頭は「こんな世の中ではない」という意味を込めた強烈な不協和音から始まります。その響きから声楽とオーケストラとが掛け合います。第1楽章の「過酷な苦しみ」、第2楽章の「人類の生命力」、第3楽章の「愛おむ感情」を表現したフレーズが奏でられ、そのフレーズが声楽によって否定されるという流れです。そしてようやく「歓喜の歌」のフレーズが奏でられると、声楽とオーケストラ両方が賛同し、力強く演奏されます。

私はこの第4楽章が大好きで、何度聞いても鳥肌が立ち魅了されます。皆さんも、ぜひこれらの背景を想像してみてください。きっと聞きなじみのあるメロディーの聞こえ方が変わってくるはずです。

フィルハーモニー交響楽団は2011年6月に創設され、クラシックを中心にさまざまな曲を演奏しています。12月27日(水)、三井住友海上しらかわホールで第11回定期演奏会を開催します。常任指揮者の境田栄斗氏とともに、喜歌劇「天国と地獄」序曲、組曲「仮面舞踏会」、ブラームス交響曲第2番を演奏します。詳細は、下記Instagramをご覧ください。たくさんの方に演奏を聴いていただきたいです。ぜひお越しください！



Instagram
中京大学フィルハーモニー交響楽団



Instagram
中京大学(chukyo_university)



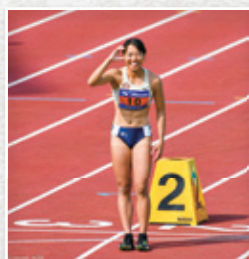


広報課&スポーツ振興部

フォトコンテスト

を開催

9月から10月にかけて中京大学の公式SNSで、広報課とスポーツ振興部が共同でフォトコンテストを開催、174作品が集まりました。今回のテーマは「中京大学スポーツの魅力」。見事入賞された作品を発表します。たくさんのご応募ありがとうございました。



最優秀賞の作品は、本誌の表紙を飾っています！



最優秀賞

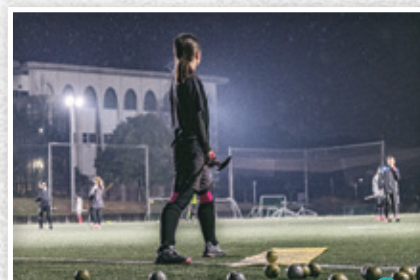
山内溪太さん
(スポーツ科学研究科)

最優秀賞をいただけてうれしいです。写真のタイトルは『有言実行』。中京大学体育会自転車競技部が参加したシリーズ戦の一場面をとらえたもので、中央でガッツポーズしているのは私の後輩です。レース前、彼に「ゴールの正面でカメラを構えているから、頼んだぞ」と伝えたところ、「任せてください」と言ってくれました。この写真は、まさに「有言実行」の瞬間です。



Instagramもチェック
@mont_tr26

スポーツ振興部長賞



これは陸上ホッケー部ですね。日が落ちて、雨も降っているというカメラの設定が難しい中、とてもきれいに撮れています。



広報部長賞



息遣いが聞こえてくるような迫力のある写真！緊迫感がこちらにも伝わってきます。



学生広報スタッフ賞



部員の弾ける笑顔が印象的です。自分もこの輪の中に入りたくなくなってしまような素敵な瞬間を切り取った写真だと思います。



中京大学附属 *News* 中京高等学校



正解、わかるかな？



SDGs 将来世代創造フォーラム 2023に参加

8月23日に開催されたフォーラムで本校ブースでは、生徒会役員たちが作ったSDGsクイズを、来場者に答えていただくという企画を実施しました。また生徒会、国際コース、サッカー部での活動の様子を伝えるパネルを展示しました。フォーラムではさまざまな企業、学校、自治体が出展しており、出展者としてはもちろん、各団体の取り組みを知る良い機会となりました。



在名古屋米国領事館首席領事との タウンホールミーティングを実施

国際コース1、2年生と英語部の生徒たちは9月27日、在名古屋米国領事館マシュー・センザー首席領事とタウンホールミーティングを実施しました。ミーティングはすべて英語で行われ、英語で意見交換をするなど、アメリカ外交官との貴重な時間を有意義に過ごすことができました。マシュー・センザー氏は生徒たちの高い英語力と発言力に感心した様子で、「これからの時代をつくっていく君たちに、積極的に活躍してほしい」と、力強く温かいメッセージをいただきました。



梅村学園の公式HPにも別の記事があります。よろしければご覧ください！



これからも応援よろしくお願いします！



【陸上競技部】2023インターハイの結果を梅村理事長に報告

陸上競技部は8月31日、全国高校総体(以下、インターハイ)での活躍を梅村清英総長・理事長に報告しました。報告したのは、陸上競技部男子(向井選手、横山選手、宮下選手、谷口選手)、女子(林選手、片山選手、岡田選手、平野選手、中澤選手、森選手、佐野選手)です。

今年のインターハイでは、林選手が七種競技と100mハードルで二連覇、片山選手が100mハードルで準優勝、向井選手が200mで準優勝など、日頃の努力が実を結んだ結果となりました。選手たちは自身の結果と今後の意気込みを語り、高校陸上界の「クイーン・オブ・アスリート」の座をつかみ取った林選手は「在学中に高校記録13秒34を更新することを目標に頑張ります」と決意を新たにしました。



2024年4月、中京大学大学院に
人文社会科学研究科
誕生!



中京大学の広報誌やスポーツ誌は、卒業後は希望された方のみにお送りしております。
卒業後の送付についてご希望がありましたら、コードを読み取り、登録をお願いいたします。

学園情報・広報誌等お申し込みフォーム ▶

